

オリンピックは中止し、 コロナ対策に総力を



コロナ禍で
大変な時だからこそ、
「困っている人の力になりたい」
私は、昨年の秋から学生支援のため大学門
前のフードバンク、ボランティア活動を行って
きました。学生から切実な話を聞いた際に、
学生に高い学費を押し付け、コロナで生活が大
変になっている若者にほとんど支援を行わない、
この冷たい政治を一刻も早く変えなければなら
ないと強く想いながら活動を続けてきました。

大型開発優先から、
「いのちと暮らしを守る都政」
の転換へ。
4年前に引き続き、都政に挑戦します。
どうぞよろしくお願いします。

からさわ地平

党・府中青年学生対策責任者

柄澤 ちへい

32歳

プロフィール

1989年長野県生まれ
東京農工大工学部卒
COP16にNGO代表参加
2017年都議選立候補



趣味：エレクトーン演奏・野球観戦

コロナ収束への提言

◆ワクチン



正確で分かりやすい情報を提供し、希望者
全員に安全 迅速確実な接種を

◆検査



無症状者からの感染を防ぐPCR検査を飛躍
的に大規模に拡充を

◆補償



危機に陥っている中小企業、芸術 文化関
係をはじめとする事業者に必要な補償を

とんでもない！

コロナ禍で五輪観戦に子どもを動員??

府中市でも全小中学生約15,000人が参加予定と判明

東京都が都内の幼稚園から高校までの子ども81万人を、
オリンピック観戦に動員する計画が明るみになりました。

府中市でも小・中学生全員が対象です。子どもたちの命で
危険にさらしかねない計画に、批判が高まっています。

新しい府中

2021年6月号外

発行/「新しい府中社」

日本共産党府中市委員会の見解を紹介します。

府中市南町4-40-1 連絡先/tel 042-336-9531

小池都政
菅政権に

◆五輪より都民の命が大事なときに

オリンピック開催に固執する **自民・公明・都民ファースト**

自民・公明・都ファは昨年10月の都議会で、共産党の反対を押し
切り「大会の開催と成功に向け全力で取り組む決議」をあげました。
今年の都議会でも「何としても大会成功(自民党)」、「安全安心な
大会に(公明党)」、「成功に向けた取り組みを加速させるべき(都民
ファーストの会)」と、小池知事に大会準備の加速を迫っています。

◆東京都の医療現場がひっ迫のときに



医療従事者を東京五輪のために医療現場から
看護師500人、スポーツドクター200人、
協力指定病院を引きはがそうとしています。
コロナ禍で大変な医療体制へのさらなる負担
はありません。



◆さらに都立 公社病院の 「独法化」で儲ける医療を狙う

小池都知事と自民・公明・都ファは、コロナ対応病院の約4割を担う多摩
総合医療センター（府中市）などの都立病院と公社病院の「独立行政法人
化」を推進しています。都の財政支出の削減が狙いです。

「独法化」になれば、採算優先の病院になってしまい、人手もコストも
かかるコロナ対応は出来なくなってしまいます。

ハッキリNO! 日本共産

からさわ地平と希望ある新しい東京へ

認可保育園が1.7倍

◆2013年に躍進した共産党議員団は、認可保育園をつくる際の土地代を援助する条例案を提案。自民党・公明党は「パフォーマンス」と攻撃して否決しました。しかし、これがきっかけで東京都は認可保育園増設の方向へと転換。2013年以降、都の保育所予算は6倍となり、認可保育園は1410所に増えました。

すべての学校の体育館にエアコン設置の道が

◆災害レベルの猛暑となった2018年、党都議団はいちはやく学校体育館の冷房化を申し入れ、「条例」提案も行いました。2019年度から予算化されエアコン設置が進んでいます。

補聴器購入費助成が実現

◆65歳以上の半数は加齢性難聴と推定される中、補聴器購入費助成を提案。区市町村の取組み支援を実現しました。



都民の願い実現

にとりくみます

日本共産党の躍進で実現します

都議選2021
からさわ地平

医療介護福祉に手厚い東京へ

◆多摩府中保健所の体制強化

コロナ対策の要となっている保健所。しかし、自民党・公明党は多摩地域の保健所統廃合を進め17ヶ所が7か所に激減。府中、調布など、6市104万人の地域に保健所はわずか1か所となっています。からさわ地平は多摩地域への保健所増設と保健師の増員など、抜本的な体制強化に取り組めます。

◆都立多摩総合医療センター「独法化」ストップ

府中市民にとって医療のより所となっている都立多摩総合医療センター。小池都政と自民・都民ファーストなどは採算優先の「独立行政法人化」にしようとしています。「独法化」になれば感染症、難病、障害者医療などが、「不採算部門」として切り捨てられる恐れがあります。

◆若者 学生が安心して暮らし、学べる東京

フードバンク活動に参加した経験を生かし、若者たちが希望の持てる東京をめざします。

- 生活困窮者への「定額給付金」の導入
- 若者向け家賃補助制度の創設
- 学生に対する食糧支援を都として実施
- 1人3万円の「学生応援給付金」実施
- 都立大学の学費を半減

◆ジェンダー平等を進め個人の尊厳を大切にする東京

ジェンダー平等を推進します。

- 女性相談事業の拡充
- 「DV相談支援センター」の増設・強化
- 「パートナーシップ制度」の実施
- 多摩地域に都の児童相談所を増設

「がんばれ！」の声をご紹介します

東京農工大学
名誉教授
淵野 雄二郎

民青同盟
東京都委員会
中野 典

からさわさんを応援します

からさわさんは、在学中から平和問題や環境問題に関心を持ち現地調査を続けてきました。今は焦眉の課題の保健所の強化や若者の暮らしの支援について、東京都と交渉するなど行動力は抜群です。工学教育研究で培った知識や経験を活かして、都政に新しい風を送ってくれることを期待しています。

からさわさんはコロナ禍で困窮している学生を対象にした食料支援活動に10回以上も参加しています。食料支援に訪れた多くの学生の「バイトがなくなった」「学費が高い」「人と会えない」という切実な声を丁寧に聞き取り励ます、頼れる人です。ぜひ都議会で、学生への給付金などの若者政策を実現して欲しいです。

からさわ地平さんの歩み

少年時代から社会問題に関心

からさわさんは1989年長野県埴科郡坂城町に生まれました。両親は、広い心を持った子に、と「地平」と名づけたとの事です。



中学校・高校時代は卓球、ピアノに熱中する一方、新聞の社会・政治面に関心を持ち、特に「脱ダム」に興味を持ったといいます。

COP16にNGO代表として参加 南相馬市で原発事故の調査

学生時代、環境問題に関心を持ち仲間たちと学習会を続け、大学3年のとき、メキシコで開かれたCOP16にNGO代表の1人として参加。また原発事故直後は南相馬市を訪ね、休業中の漁師や仮設住宅の避難者からの聞き取り調査に参加。

からさわさんは「環境問題も原発事故も、大もとは大企業の利益優先が招いたもの、政治がたがすべき」と語っています。



学生支援

フードバンク活動に全力



からさわさんは大学を卒業してから9年間、日本共産党の専従職員として、青年や学生を応援する分野で活動してきました。

学生時代に学んだ環境問題をライフワークに、地域の若者たちと地球温暖化やプラスチック海洋汚染の学習会などにも取り組んできました。

からさわさんは「地球温暖化や環境汚染は、自分たちにとっても大事な問題です。対策に消極的な政治を変えたい」と語ります。

新型コロナの影響でバイト収入が減るなど学生の生活も深刻です。「少しでも役に立てれば」と地域の青年たちが立ち上げた**フードバンク**。からさわさんも府中、調布の大学門前に毎回参加、仲間たちから頼りになる存在になっています。



若者の働き、学びを支える都政を